

平成29年度 第1回 滋賀県環境こだわり農業審議会  
議事次第

日 時：平成29年7月25日 10:00～12:00  
場 所：滋賀県庁北新館 5-B 会議室

1 開 会

2 挨拶

3 議 事

(1) 平成28年度環境こだわり農業推進基本計画の進捗状況について 

資料1
-----

(2) 環境こだわり農業の深化に向けて 

資料2
-----

(3) その他 

資料3
-----

資料4
-----

4 その他

5 閉 会

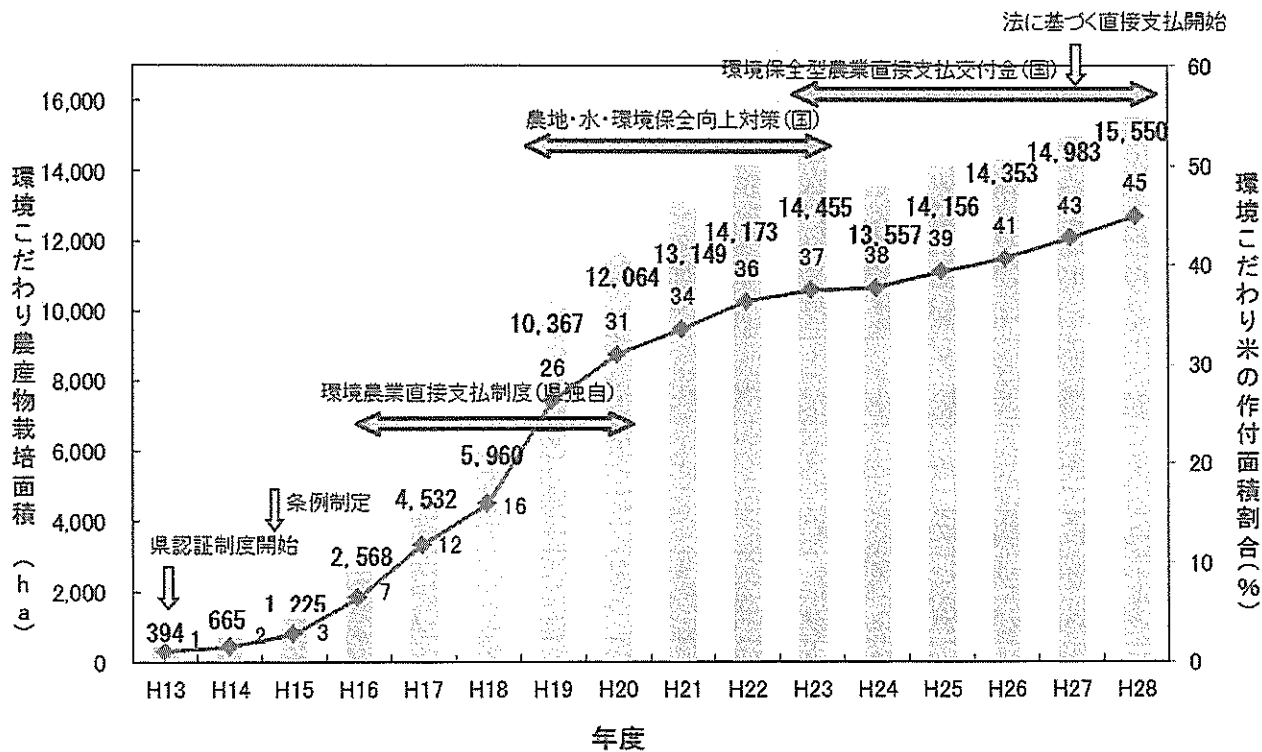


## 滋賀県環境こだわり農業推進基本計画の進捗状況と評価

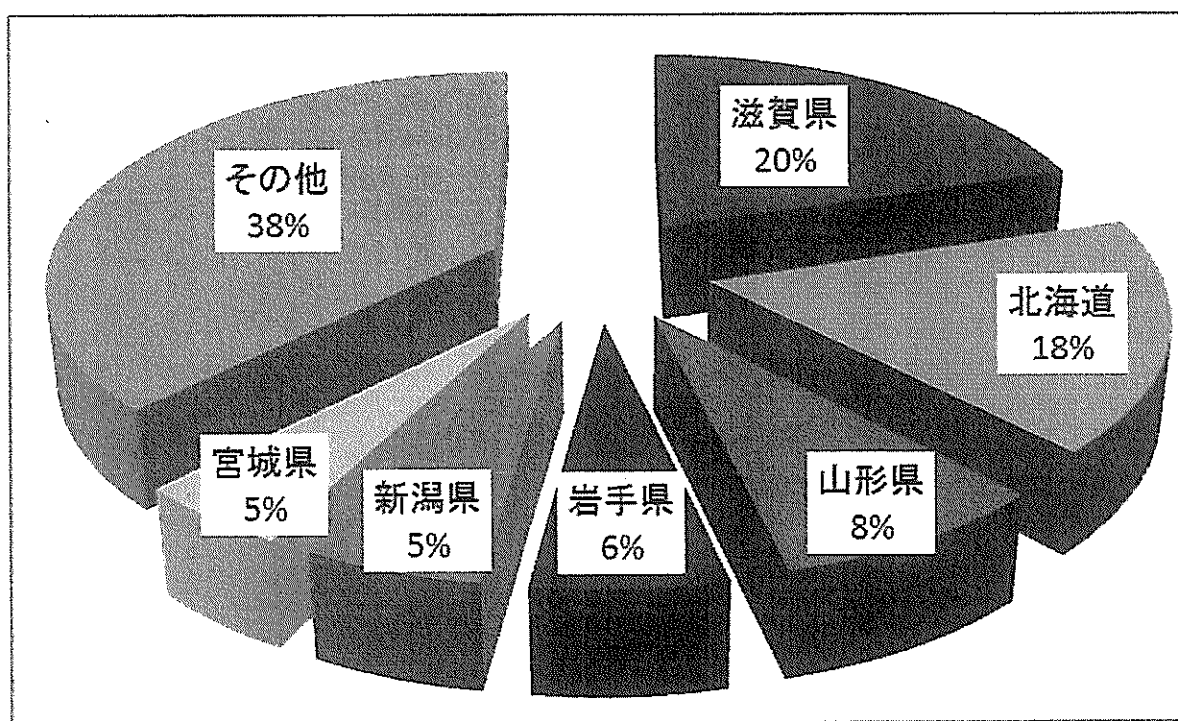
進捗状況						
H26 (計画時点)	H28	H29	H30	H31	H32	
【環境こだわり米の作付面積割合】						
実績	41%	45%			50%以上 (目標)	
(施策の評価・課題等) ○環境保全型農業直接支払交付金による支援の効果および全量が環境こだわり米である「みずかがみ」の生産拡大等により、前年より約500ha増加した。 ○農業者が安心して環境こだわり農業に取り組めるように、国が必要額を措置されるよう強く要請するなど引き続き交付金による支援を行うとともに、全国のトップランナーとして環境こだわり農業の深化に向けて、有機農業等の推進方策の検討が必要である。						
【流域単位での農業排水対策の取組面積(毎年)】						
実績	16,159ha	17,276ha			17,860ha (目標)	
(施策の評価・課題等) ○アセットマネジメントによる節水型、循環型水利用対策の推進として、用水需要に即したきめ細かな配水が可能となる水管理システムを導入した(162ha) ○また、世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策において、水質保全池を適正管理する取り組み面積の増加(34ha)や、農業排水を循環利用する施設の設置(3ha)等が進んだ。 ○主要河川の透視度や琵琶湖の各水質指標は長期的には改善されており、引き続き対策を進める						
【環境に配慮した水稲品種の育成】						
実績	0品種	0品種			1品種 (目標)	
(施策の評価・課題等) ○平成28年度：滋賀77号(いもち病のほ場抵抗性を強化した「秋の詩」系統)については、いもち病常発地において、抵抗性の効果を確認した。また、「みずかがみ」を強化した候補系統については、所内で系統選抜試験を実施した。						
【魚のゆりかご水田など「豊かな生きものを育む水田」の取組組織数(累計)】						
実績	29組織	37組織			60組織 (目標)	
(施策の評価・課題等) ○農村まるごと保全向上対策の活動組織を対象に、「豊かな生きものを育む水田」の取組について啓発を行ったことにより、取組組織が6組織拡大した。 ○田園振興課と農産普及課が連携して「魚のゆりかご水田」に取り組む組織に対して支援、指導を行ったことにより、平成28年度に新たに「魚のゆりかご水田米」の認証取得に取り組む組織が1組織増えた。また、平成29年度の認証取得に向けてさらに2組織が取り組むなど、取組が活発化してきている。 ○中流域での取組拡大に向けて、さらなる普及啓発が必要である。						
【環境こだわり農産物コーナーを有する店舗数(累計)】						
実績	1店舗	4店舗			10店舗 (目標)	
(施策の評価・課題等) ○環境こだわり農産物販売コーナー化を支援し、県内3店舗の直売所で、新たにコーナーの設置ができた。 ○今後も、直売所を中心にコーナー設置店舗を拡大していくとともに、品揃えの充実を図る必要がある。						

進捗状況						
H26 (計画時点)	H28	H29	H30	H31	H32	
<b>【環境こだわり農産物を利用した加工食品の数(累計)】</b>						
実績	61品	64品				85品 (目標)
(施策の評価・課題等) ○新たにみずかがみのレトルトパックやチップス等でマークを表示されるようになった。 ○既存の仕組みの中で、引き続き加工食品での利用、販売を促進する必要がある。						
<b>【環境こだわり農産物の認知度】</b>						
実績	43.5%	47.1%				50% (目標)
(施策の評価・課題等) ○京阪神を中心に400店舗以上で環境こだわり米のキャンペーンを実施し、京都・大阪の量販店での店頭PRイベント2回開催、知事コメントを掲載した新聞広告1回、懸賞キャンペーンへはのべ11,260通の応募があった。 ○認知度向上のため継続的かつ効果的なPRを実施するとともに、生産者の琵琶湖に対する思いや苦勞されていることと、環境こだわり農産物を結びつけ、発信していく必要がある。 ※認知度は「滋賀県環境こだわり農業総合的調査」による(H28)						
<b>【給食に環境こだわり米を利用する市町数】</b>						
実績	11市町	17市町				19市町 (目標)
(施策の評価・課題等) ○地産地消や環境学習の観点から環境こだわり栽培「みずかがみ」を中心に利用が拡大した。 ○未利用の地域では、コスト面で関係団体間(JA、給食センター、市)の意識統一が難しく、導入困難な状況。						
※継続把握指標(目標値は持たないが継続して把握する必要がある指標)						
<b>【環境こだわり農産物の栽培面積】</b>						
実績	14,353ha	15,550ha				
<b>【化学合成農薬使用量の削減割合(平成12年度対比)】</b>						
実績	40.5%	37.7%				
<b>【主要河川の透視度(代かき・田植え時期)】</b>						
実績	42.1cm	36.7cm				
<b>【環境こだわり農産物認証マークを表示して出荷販売する生産組織数】</b>						
実績	112組織	109組織				
<b>【環境こだわり農産物の継続購入率】</b>						
実績	32.1%	未計測				

### ○環境こだわり農産物栽培面積の推移



### ○平成28年度環境保全型農業直接支払交付金取組状況(全国)



## 滋賀県環境こだわり農業推進基本計画による成果目標等一覧

### ◆基本方針1

#### 【成果目標】

項目	計画時 (平成26年度)	目標 (平成32年度)
環境こだわり米の作付面積割合	41%	50%以上
流域単位での農業排水対策の取組面積	16,159ha	17,860ha
環境に配慮した水稻品種の育成	—	1品種
「魚のゆりかご水田」など豊かな生きものを育む水田づくりに取り組む組織数	29組織	60組織

\*継続把握指標（目標値は持たないが継続して把握する必要がある指標）

項目	計画時 (平成26年度)
環境こだわり農産物の栽培面積	14,353ha
化学合成農薬使用量の削減割合（平成12年度対比）	40.5%
主要河川の透視度（代かき・田植え時期）	42.1cm

### ◆基本方針2

#### 【成果目標】

項目	計画時 (平成26年度)	目標 (平成32年度)
環境こだわり農産物コーナーを有する店舗数	1店舗	10店舗
環境こだわり農産物を利用した加工食品の数	61品目	85品目

\*継続把握指標（目標値は持たないが継続して把握する必要がある指標）

項目	計画時 (平成26年度)
環境こだわり農産物認証マークを表示して出荷販売する生産組織数	112組織

### ◆基本方針3

#### 【成果目標】

項目	計画時 (平成26年度)	目標 (平成32年度)
環境こだわり農産物の認知度	43.5%	50%
給食に環境こだわり米を利用する市町数	11市町	19市町

\*継続把握指標（目標値は持たないが継続して把握する必要がある指標）

項目	計画時 (平成26年度)
環境こだわり農産物の継続購入率	32.1%

環境こだわり農業の深化に向けた行程表 (案)

	H28	H29	H30	H31
主な動き			米政策の変更	世界農業遺産認定目標
環境こだわり米作付割合 目標 (現状 H28 45%)		47%	50%	50%以上
環境こだわり農業 審議会	2月 検討事項整理	7月・12月 具体的検討	3月 論点整理	環境こだわり農業 基本計画改定
有機農業等推進方策検討協議会 (有機農業実践農業者、農業団体、県等で構成)		詳細な検討・課題整理 (4回程度開催)		
検討事項等		<p>○有機農業等新たな方向性の検討</p> <p>★新たな方向性の例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有機農業</li> <li>・除草剤のみ使用</li> <li>・魚のゆりかご水田※1</li> </ul> <p>★野菜等園芸作物の推進方策を併せて検討※2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○有機農業等の新たな表示、認証・確認のあり方</li> <li>○水稻有機栽培技術の実証・体系化</li> <li>○環境こだわり農業の販路拡大、ブランド化に向けた検討</li> <li>○環境保全型農業直接支払の支援対象取組の効果検証</li> </ul>		
(環境保全型農業直接支払交付金に関する国の動き)		(制度見直し検討)	(見直し一部実施)	(本格見直し実施)

環境こだわり農業の  
深化  
リニューアール  
スタート

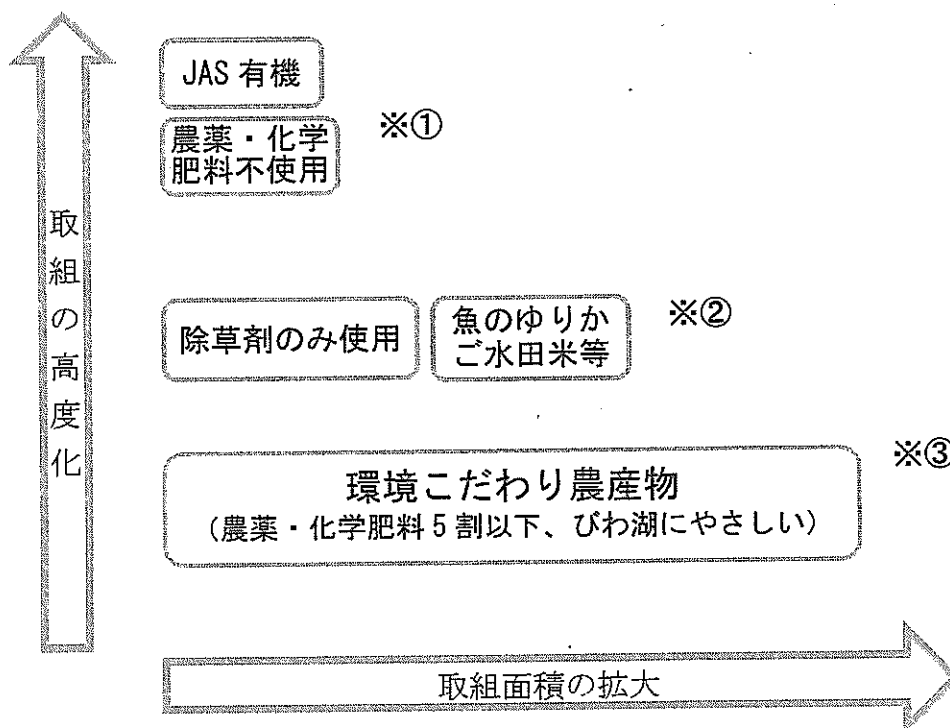
周知

※1 琵琶湖とつながる生きもの田んぼ物語語推進協議会で推進方策を検討  
※2 滋賀県園芸農産振興協議会で推進方策を検討

## 環境こだわり農業の深化に向けた推進方策について

農薬・化学肥料5割削減の取組面積の拡大に加えて、琵琶湖等の環境保全、安全・安心な農産物の供給につながる高度な取組へのステップアップが進み、県内はもとより全国の消費者に新しい豊かさを提供し、環境こだわり農業のブランド力向上を図り、琵琶湖と共生する本県農業の健全な発展に資する。

### 目指す方向（環境こだわり農業の深化のイメージ）



※深化に向けたそれぞれの取組の各論については各協議会で検討

- ① 有機農業等の検討（水稻）：滋賀県有機農等推進方策検討協議会
- ② 魚のゆりかご水田米等の検討：琵琶湖とつながる生きものたんぼ物語推進協議会
- ③ 野菜等園芸作物の検討：滋賀県園芸農産振興協議会

#### 【参考】

取組	現状
① 有機農業 (農薬・化学肥料不使用含む)	水稻 232ha(うち JAS139ha)、茶 3ha 野菜 4ha、果樹 2ha、そば等 182ha
②除草剤のみ使用(殺虫殺菌剤不使用)	水稻 125ha(野洲 40ha、竜王 85ha)
③魚のゆりかご水田米	水稻 125ha(うち認証 74ha)
④環境こだわり農産物	水稻 13,584ha、野菜 156ha、果樹 86ha、茶 13ha



# 有機農業等の検討状況について

## 1 有機農業等推進方策検討協議会の設置（平成29年4月18日）

### ア 構成

- ・有機農業実践農業者、農業団体、市町、県
- ・必要に応じてマーケティング専門家、流通業者を招聘

### イ 検討内容（予定）

- ・有機農業等を含めた生産拡大、ブランド力向上方策
- ・有機農業等の新たな表示
- ・有機農業等の栽培技術体系の確立

## 2 環境こだわり農産物等に対する県民意識調査の実施【詳細は5p】

- ・環境こだわり農産物、有機農産物に対して、高い支払意思額
- ・環境意識が高く、農産物の安全性に関心の高い方ほど評価が高い。  
→有機農産物に対する、潜在的ニーズはある。環境こだわり農産物については、取組をしっかりと伝えることで高い評価が得られる可能性がある。

## 3 有機農産物の流通状況に係る調査の実施【詳細は7p】

### ア 有機農産物（水稻）の流通に関する状況

- ・生産コストや不安定な収量を補うため、価格が高く（慣行の1.5～2倍）、また、小ロットの取り扱いとなることから、直販が中心となり、高価格であっても安全・安心・健康を志向する一部の消費と結びついて市場を形成している。
- ・県産米の大半を占める、生産→集荷→卸→小売のルートで取り扱うには生産量が少なく、集荷体制の整備も困難であるとともに、価格帯が高く、量販店の消費者ニーズに合わない。

### イ 有機農産物の流通拡大の可能性

- ・専門店化することにより、有機農産物等を評価する消費者に、商品とメッセージを確実に届けることで、購入につなげ、販売を拡大している事業者もある。

#### 4 第2回協議会の概要（平成29年7月19日 開催）

- ア 有機農業の販路拡大、ブランド化に向けて今後検討が必要な事項
- ・理念を形にしたとき、他とどう違うのか、滋賀らしさが思い浮かぶイメージは何か？滋賀の米の目指す姿等、関係者が持つイメージのベクトル合わせが必要、方向性の統一。
  - ・ターゲット、イメージ、チャネル、売り場所、価格帯、プロモーション方法をどのように組み合わせていくのか。
  - ・おいしさの評価は食味だけでなく、情報によっても変えることが可能（パッケージ、色、ストーリー、売る場所、ネーミング等）。
  - ・使い方の提案が必要。例えばお茶と和菓子。米と〇〇（近江牛や湖魚、近江の茶）。消費者がどうしたら選びたくなるかを提案する。
  - ・目標とする販売額、ロット、およびその販路の可能性。
  - ・国の有機農業の推進方針との整合にも配慮。

イ 協議会で出された意見

- ・「こだわり」は世にあふれており、何にこだわっているか消費者には伝わりにくい。
- ・おいしい、安全・安心はブランドではなく、あくまで土台を構成する要素。
- ・琵琶湖を守り続けるための取組が消費者にとって価値があるものとして説明できることが必要。
- ・生産現場からではなく、食卓からの発想が必要。
- ・有機米もネットで検索すると、1400万件もあり、小さい産地が大産地に勝つためには尖りが必要（顧客にとっての「独自性」、「共感性」、「価値性」）。
- ・環境保全などの社会的意義等への共感が購入につながるの是一回目まで、2回目からは中身の評価となる。一時のブームでなく、飽きさせない工夫や売れ続ける仕組みも必要。
- ・シンプルに伝えることが、口コミを期待する際には有効。

#### 5 水稻の有機栽培実証ほの設置【詳細は9p】

ア 実証内容

最新の乗用除草機による機械除草を用いた省力・安定技術体系

イ 設置場所

甲賀市水口町宇川、東近江市大森町、長浜市小谷美濃山町 計3ヵ所

# 滋賀県環境こだわり農業総合的調査の結果について

## ○ 調査概要

調査目的: 県民の農作物購入時の意識や琵琶湖の環境保全への関心及び環境こだわり農産物に対するニーズや購入可能価格などを把握し、環境こだわり農業の維持・拡大や世界農業遺産の申請・取得に向けた基礎資料を得ることを目的として、調査を実施。

調査対象: 県内在住の18才以上、3000名を無作為抽出 (回収率: 45.5%)

調査期間: 平成28年11月30日~12月15日

分析方法: 個別の項目で評価せず、商品全体を評価することで、個々の項目の購買に影響する度合いを算出するコンジョイント分析を実施 (協力: 龍谷大学)。

## ○ 調査結果(環境こだわり農産物に対する支払意思額)

無効な回答を除いたうえで、回答者の属性や購入形態、環境への配慮などの回答結果を一切無視し、単純に実験結果を回帰して得られた米5kgに対する支払意思額は以下のとおり

慣行: 1518円、濁水処理: 1716円、環境こだわり: 3001円、農薬・化学肥料不使用: 3156円、有機JAS: 3258円

また、標準的な属性グループとして、各回答の中から、最も回答の多いグループ\*をモデルとし算出した支払意思額は以下のとおり(ベース金額)。

慣行: 1870円、濁水処理: 1924円、環境こだわり: 3142円、農薬・化学肥料不使用: 3214円、有機JAS: 3488円

### ※ベース金額を構成するグループ

60歳代、居住年数30年以上、年収200万~400万円未満、野菜や果物は普段量販店で購入、どちらかといえば不安を感じている、縁故米、減減をたまに買う、琵琶湖の水質は少しは改善してほしい、琵琶湖の固有種の数は大幅に改善してほしい

## ○ 調査結果から示された消費者の評価と分類(イメージ)

- 若い世代ほど、環境こだわり農産物(以下「こだわり」という。)や有機JAS農産物(以下「有機」という。)に対する相対的な評価が低い。
- 減・減をよく買うグループでは慣行への評価が低く、減・減を買わないグループでは有機への評価が低い。
- 農産物の安全性に不安を感じてるグループの方が、有機等に対する相対的な評価が高い
- こだわりや有機のマークを意識している人はそのマークに付加価値を認めている。
- 琵琶湖の水質や固有種数の改善への意識が高いほど、相対的にこだわりや有機への評価が高い。
- 安さを重視するグループでこだわりや有機への評価が低く、おいしさを重視するグループで有機への評価が高い。

こだわりや有機を低く評価	こだわりや有機を高く評価
・若い世代	・環境意識が高い
・安さを重視	・マーク表示に注目
・スーパー等で購入	・農産物の安全性に不安を感じる
	・購入頻度が高い
	・おいしさを重視
	・縁故米を利用

## ○ 考察

- ・有機JASや農薬・化学肥料不使用米に対して、高い支払意思額が示されたことから、潜在的な需要はあり、どのような生産・流通体制で需要と結びつくかが重要と考えられる。
- ・環境こだわり米については、慣行よりも5%程度高い価格帯が現状であるが、今回の調査では高い支払意思額が示された。設問で詳しく説明を行ったことや、県内調査による影響はあるが、「環境こだわり農業」の取組をしっかりと伝えることで高い評価を得られる可能性がある。

○ 回答者属性による、米5kgに対するベース金額との差(有意差があるものを抽出)

回答者属性	回答率 (%)	慣行栽培 1870円	環境 こだわり 3142円	有機JAS 3488円
① 20歳代	4.8	706	±0	±0
30歳代	12.7	511	±0	±0
40歳代	18.8	253	±0	±0
50歳代	21.6	±0	±0	±0
60歳代	26.1	±0	±0	±0
70歳以上	15.5	306	±0	318
若い世代ほど慣行栽培への支払意思額高い傾向→こだわり等への(相対的な)プレミアム評価は低い。				
② 米はスーパーで購入	21.1	±0	-193	-299
米は宅配で購入	6.7	±0	±0	-390
米は直売所か農家から直接購入	14.8	±0	±0	-423
知り合いや親せきなどから購入	43.4	±0	±0	±0
米は自給している	10.7	-612	-485	-1021
ベースである縁故米のグループと比べ有機への支払意思額が低い→縁故米のグループでは、お金を 出して米を買う層及び自給層と比較して、有機米を高く評価している。				
③ 減・減をよく買う	29.5	-414	±0	±0
減・減をたまに買う	58.8	±0	±0	±0
減・減を買わない	9.8	±0	±0	-435
よく買うグループで慣行への意思額低く、買わないグループでは有機への意思額が低い。				
④ 農産物の安全性に不安を感じていない	15.3	291	±0	±0
どちらかといえば不安を感じていない	31.5	209	251	±0
どちらかといえば不安を感じている	40.7	±0	±0	±0
農産物の安全性に「不安を感じていない」または「どちらかという不安を感じていない」グループ で慣行栽培への支払意思額高い→農業・化学肥料不使用や有機JASに対する(相対的な)プレミ アム評価が低い。				
⑤ 購入時環境こだわりマークに注目	25	±0	288	255
購入時有機JASマークに注目	16.1	-322	±0	±0
「こだわりマークに注目」または「JASマーク」に注目しているグループでこだわりやJASへの支払 意思額高いまたは、慣行への支払意思額が低い→マークを意識してる人はそのマークに付加価値を 認めている。				
⑥ 琵琶湖の水質：大幅に改善してほしい	34	±0	±0	338
琵琶湖の水質：少しは改善してほしい	46.6	±0	±0	±0
琵琶湖の水質：現状で良い	6.9	±0	±0	±0
琵琶湖の固有種数：大幅に改善してほしい	54.5	±0	±0	±0
琵琶湖の固有種数：少しは改善してほしい	35.9	-223	-161	±0
改善への意思が高いほど、相対的にこだわりや有機への支払い意思額が高い。				
⑦ 安さ重視	34.2	±0	-219	-435
環境配慮重視	10.2	-1087	±0	±0
おいしさ重視	54.2	±0	±0	271
安さ重視と環境配慮のグループで評価は相反し、おいしさを重視するグループで有機への評価が高 い。				

## 有機農産物の流通状況について(県聞き取り結果)

事業者	有機栽培等の取扱状況	消費者ニーズ等	流通形態等	課題等
関東 専門小 売店	有機米は7/7アイテム。1000円/kgを超えるものも徒歩での来店となるため、包装は1kgか2kg。	オーガニック食品に関心のある消費者を対象に、2016年にオープン。20店舗まで拡大を予定。店舗の立地条件は慎重に選択 <u>安全・安心・健康に関心ある子育て・高所得世帯の利用が多い</u>	専門店化することで、有機に関心のある消費者にアピールし集客。米はネット通販で代用可能だが、特に生鮮食品は店頭購入が求められる。	野菜や果物が供給不足。輸入農産物も取り扱うが、国産かどうかよりオーガニックであることが重要。国産有機の生産拡大を強く望む(米は足りている)
生活協 同組合	2/32アイテム。県産コシの1.6倍の価格帯、取扱量は米全体の0.3% 環境こだわり米を5JAと連携し販売	有機や減・減の米全体に占める取扱割合は一定(増減なし) 取扱量の9割が県内産米(他県と比べ特徴的) 有機野菜の需要は在り、価格3割増しでもよく売れる	環境こだわり米は年間契約で定期販売。価格を抑え通年契約で安定出荷を目指している。 環境こだわり米1kg購入につき、1円を「マザーレイク滋養応援基金」に寄付	「こだわり」は県が認証しているというところが、一定購買行動につながっていることと評価 こだわりマークを変更した場合、一から勉強しなおしとなる。
県内卸	現在有機栽培米の取扱無し 過去に「魚のゆりかご米」を取り扱ったが売れ行きは芳しくなかった。	有機栽培米の問い合わせはあるが、他の契約産地の在庫が不足した量の手当が必要な時の照会。 (ゆりかご米の経験から量販店の客層にニーズは少ないと評価)	業務用の取り扱いが増加傾向であり、安心・安全へのこだわりよりは価格中心の要望が多い	精米行程において、最低500kg～1tのロットは必要。小ロットになるほど精米ロスが増え、歩留まりが低下し、割高な価格設定が必要となる

事業者	有機栽培等の取扱状況	消費者ニーズ等	流通形態等	課題等
宅配事業者	<p>オーガニックでなければならぬというわけではなく、必要に応じて農薬も使うがその理由をしっかりと説明。</p>	<p>季節に合わせたライフスタイルや環境負荷が少ない物を選ぶ人が増えており、海外生活の有る人で多い傾向を感じる。 30代40代が多く、購買を通じた社会参画意欲が高いように感じるところから、商品のメッセージ、エッジが必要</p>	<p>多くの生産者(大半が新規就農者)と提携し、半分を関東へ宅配1/4が京都。米なら1t程度から取扱可能、小ロットでも特徴をPRして販売。 店舗での販売もある。顧客との偶然的な出会いの場、窓口として運営</p>	<p>商品、流通、価格、メッセージにストリーが必要。 滋賀県産というメッセージをどう伝えるのが重要。例えば環境保全や生物多様性を分かりやすく端的に顧客に説明できるのか。</p>
直売所	<p>店頭で秤売りを実施 ①こだわりの米(一般コシ+5%の価格) ②減農薬・無化学肥料栽培米(+3割の価格) 販売比率はコシヒカリで、一般: ①:②=14:4:6</p>	<p>こだわりの米には関心が低い有機には関心がある。(安全・安心)有機栽培米に対するニーズは有り、店頭にあれば売れる。 直売所=安全・安心と評価する客層あり。価格だけで訴求しているわけではない</p>	<p>ポップ等による商品説明は不十分だが、店員が説明することで購買につながる可能性がある。 シールの意味を理解してもらえたい方は購入につながる こだわりのコーナーを設けることで、優先的に店頭に出品できる。</p>	<p>減・減の取組が消費者に十分説明できていない。琵琶湖保全の効果をも明確な数値や分かりやすい言葉で伝えられると良い</p>
県外卸	<p>2016年に有機JASの小分け業者認定を取得。宮城県産ササニシキ、ひとめぼれ、計10tを百貨店の頒布会を中心に販売。 収量性が低いことから、一俵あたり1万～加算し仕入れ</p>	<p>一般の量販店等に高価な有機米を販売するのは困難だが、ギフト等での利用には可能性あり、様々なギフトアイテムを提案中。生協とも連携しているが、西日本でもまとまったロットの確保が困難な状況。</p>	<p>認定を取得したラインは600kg/hrの精米能力を有し、コストを下げるとともに、稼働率の向上が必要。</p>	<p>先行産地や、業界最大手の卸も苦戦したことから、何らかの課題はあるものと思う。 現在は、ロットが小さく、卸のラインには乗りづらいアイテムとなっている。</p>
関西小売専門店	<p>4/41アイテム:新潟コシの1.8倍の価格帯 店頭的全アイテムの1/2を有機やエコ、産直農産物等に切り替え</p>	<p>安全・安心に関心のある子育て、高所得、流行に敏感な女性をターゲットに2016年オープン。一般店舗の有機野菜の売り上げ1%未満→2割程度まで拡大。通常より広いエリアから関心のある消費者を集客。イベント等でも有機農産物の試食が好評、ファンを拡大</p>	<p>通常店では、有機等の取り扱い量も少なく、販売促進に取り組み際の優先順位も低なりがちだが、新店舗では有機農産物等をどう販売すれば良いかという観点から店づくりを行える。 仕入れは専門の卸業者からで、産地との、直接契約等は行っていない</p>	<p>通常店舗では価格、品揃え、PR不足が課題となり、具体的な展開方法が生まれなかった。 オーガニックに関心はあるものの、十分には認知されておらず、啓もう活動、情報発信を通じて販売強化が必要。取組を通じて市場は拡大可能</p>

## 機械除草を中心とした水稻省力・安定生産技術体系の現地実証の概要

平成29年7月19日（水）

滋賀県農業技術振興センター

### 1 実証ほ設置の目的

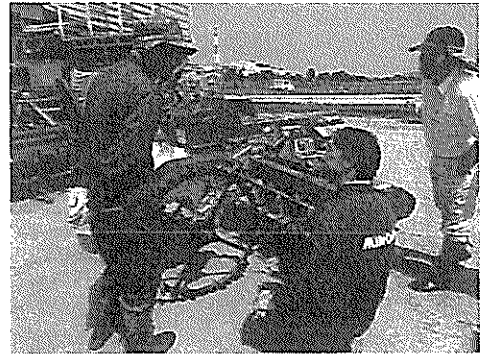
環境こだわり農業の深化に向けて、新たにブランド力強化や琵琶湖の保全に資する取組を推進するため、農薬・化学肥料を使用しない水稻栽培において、省力かつ安定した収量を確保できる栽培技術（最新の8条型乗用除草機による機械除草を中心とした技術体系）を実証することを目的に県内3か所に実証ほを設置。

### 2 実証ほにおける目標

- 1) 収量 420kg/10a
- 2) 手取り除草にかかる労働時間の削減

### 3 実証ほの設置場所（面積）・栽培品種

甲賀市水口町宇川（23a）、コシヒカリ  
東近江市大森町（36a）、コシヒカリ  
長浜市小谷美濃山町（30a）、玉栄



除草機の操作方法の説明を受ける農家

### 4 技術の内容・実施日

- 1) 育苗  
化学肥料のっていない育苗培土を利用、肥料は有機肥料を利用、中苗移植
- 2) 代かき  
複数回代かきの実施（甲賀市では2回（5/1、5/15）、長浜市では3回（4/10、5/13、5/26）、東近江市では4回（4/26、5/6、5/16、5/25））
- 3) 水管理  
10cm程度の深水管理（機械除草の際は作業性を考慮し5cm程度の浅水に調整）
- 4) 米ぬか散布  
60～80kg/10aを基本に散布（散布時期は農家により異なる）
- 5) 機械除草  
8条型乗用除草機による除草（各実証ほ2回実施：甲賀市では5/26、6/5、長浜市では6/10、6/20、東近江市では6/7、6/17）

### 5 調査内容

稲株損傷調査、雑草調査、生育（収量）調査、食味調査、労働時間、経営調査等

### 6 8条型乗用除草機実演会・現地検討会の開催

農機メーカーから直接実証農家に除草機の操作方法や注意点等について説明後、1回目の機械除草に合わせて8条型乗用除草機の実演会を開催。

※甲賀市では当初予定より移植日を早められたため、関係者のみで急遽対応。東近江市では25人、長浜市では29人が参加。

現地検討会は7/28（金）に開催予定。



除草機実演会の様子

## 7 機械除草の様子・除草前後の状況

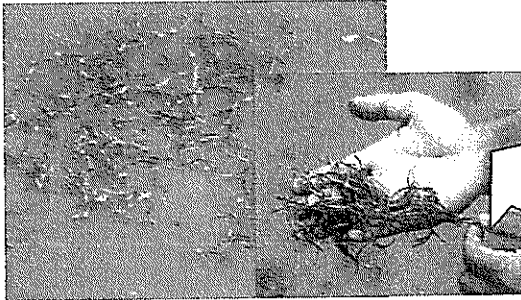
除草前



条間・株間に発生したホタルイ・コナギ  
葉齢は2～3葉期（長浜市）

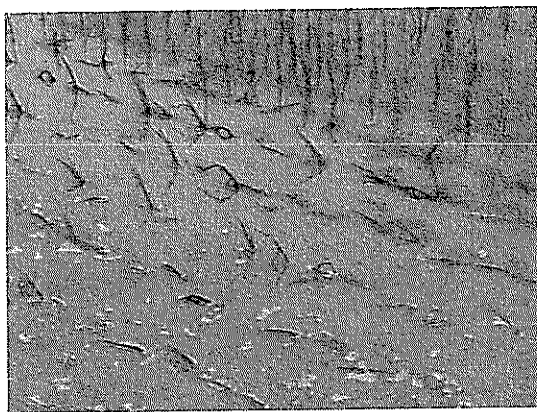


除草後



水面に浮いたホタルイ・コナギ  
（長浜市）

- ・条間は深さ約5cmでローターが回転するよう調節
- ・株間は深さ約2cmでツースが横振動するよう調節
- ・機械除草に要した時間は15～20分/10a



機械除草直後の稲の様子（長浜市）



機械除草から約50時間後の稲の様子（長浜市）  
時間の経過とともに起き上がりつつある稲

## 8 除草効果・除草機の操作性

- ・条間の雑草には効果が高いが、株間に生えた葉齢の進んだコナギには効果が劣る。
- ・三輪タイプのため、小回りが利き、稲の踏み倒しが少ない。
- ・作業速度が速すぎると、稲へ損傷を与える。

## 9 農家の感想・コメント

- ・これまでの手押し型除草に比べて、非常に省力的である。
- ・条間の除草効果は高かったが、株間の除草に少し課題が残る。
- ・作業開始時には旋回時の条合わせに手間取ったが、慣れれば問題なくなった。
- ・機械除草直後は稲が倒されて心配したが、数日で回復し安心した。



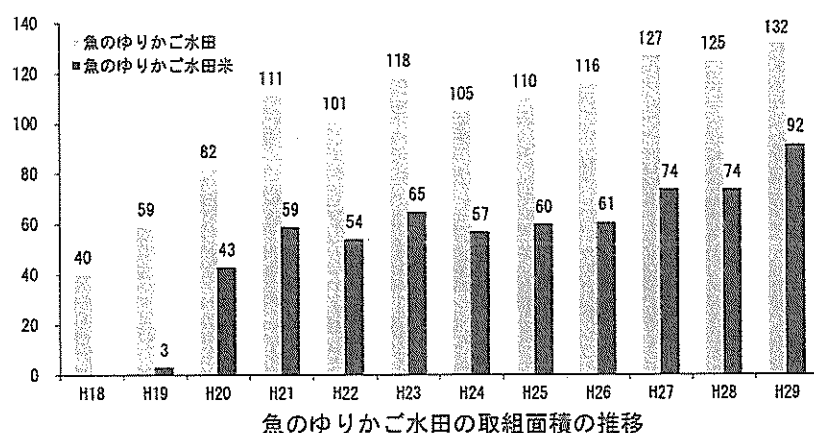
## 魚のゆりかご水田米等の取組拡大について

魚のゆりかご水田をはじめとする豊かな生きものを育む水田の取組については、平成 30 年の世界農業遺産の申請における主要な取組として、また、環境こだわり農産物の特徴的な取組のひとつとして一層の取組拡大を図る必要がある。このため、部内関係課および各農業農村振興事務所が連携して推進することとする。

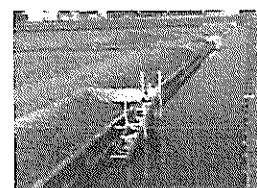
### 1. 取組状況

#### (1) 魚のゆりかご水田

魚のゆりかご水田の取組面積は平成 29 年度で 132ha（そのうち「魚のゆりかご水田米」としての認証を受ける面積は 92ha となる見込み）であり、徐々に拡大してきている。



堰上式魚道



一筆型魚道

#### (2) 中流域・山手の取組

甲賀市小佐治では、水田内水路などの豊かな生きものを育む水田づくりに取り組み、そこで生産された米を「エコ～メダカ米」として販売している。しかし、それ以外でこの取組による米のブランド化が図られている地域はなく、今後、取組拡大を図る必要がある。

### 2. 課題と対応策

#### (1) 課題

##### ①取組面積の拡大

- ・平成 29 年度において、魚のゆりかご水田に取り組む 25 地域のうち、取組面積が 5ha 未満であるのが 8 割を占めていることから、これらの面積拡大を図ると同時に、新規に取り組む地域を増やしていく必要がある。

##### ②販路の確保・拡大 (JA との連携)

- ・「魚のゆりかご水田米」の販路確保のため、カントリーの利用および JA への出荷を進めていくという方向性が考えられるが、そのためには、JA が求める栽培方法で品種を統一し、更にある程度まとまった面積で取り組む必要がある（乾燥・調製については、担い手の乾燥機等を利用するという選択肢あり）。

#### (2) 対応策

- ・世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策に、魚道等整備費用を支援する「生態系保全型」を平成 29 年度に新設。
- ・魚道設置の現地研修会（資材は県が負担）の開催（平成 29 年度）。
- ・水産課の「水田へのニゴロブナ孵化仔魚放流事業」の実施地区への働きかけ。
- ・活動組織を中心として設立された琵琶湖とつながる生きもの田んぼ物語推進協議会が実施する販路拡大に向けた PR や取組への支援。

■魚のゆりかご水田

# 魚のゆりかご水田プロジェクト

湖魚が産卵・成育できる水田環境を取り戻そう！

農家、地域、琵琶湖、そして何より生きものにとって大切な『魚のゆりかご水田』  
人や生きものが安心して暮らせる田んぼの環境を取り戻すプロジェクトです。

## 湖岸の田んぼと魚の関係

### これまで

湖岸の水田は、琵琶湖の水位の変動による浸水被害や田舎による農作業など、農家は大変苦労されています。  
一方で、えさになるプランクトンが豊富であったかき田んぼは、湖魚の産卵・成育に格好の場所、まさに『魚のゆりかご』としての役割を担っていました。

### 現在

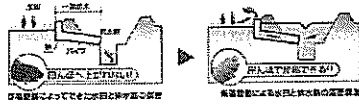
気候変動により、生息地の向上や産卵環境の改善が図られました。  
一方で、乾田化のために水層を深くしたため、魚が田んぼに遡上しにくくなりました。

### 今、そしてこれから...

滋賀県では、『魚のゆりかご水田プロジェクト』に取り組  
み、魚の生産性を維持しながら、魚が産卵・成育できる水田  
環境を取り戻します。

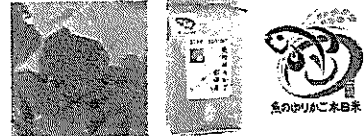
## 水田を、魚の産卵・成育の場として再生する方法

本道（魚のとおり道）の設置により、湖水位の  
水位は稲刈後に田んぼの高さまで上がります。  
琵琶湖から上がった水は、一歩排水を供  
つて田んぼへ入り、産卵することができます。

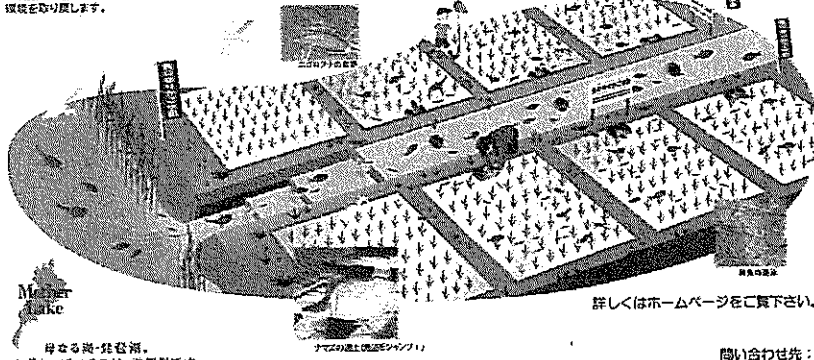


## 魚のゆりかご水田の効果

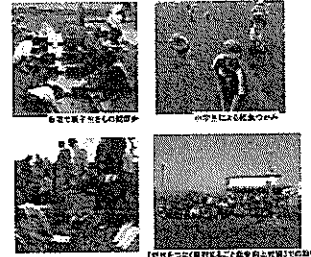
生産者の再生による地域の環境意識の向上、地域コミュニティの活性化、そして農産物のブランド化などが期待できます。



田んぼで育ったエコプロダクトの米 生産者にとって、ブランド化を目的とした。



母なる湖-琵琶湖、  
—あずかっているのは、滋賀県です。



詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.pref.shiga.lg.jp/g/noson/fish-ardit/>  
『マスがジャンプして遡上する動画もあります！』

問い合わせ先：滋賀県 農政水産部 農村振興課 地域資源活用推進室

■魚のゆりかご水田米

『魚のゆりかご水田米』は  
環境こだわり農産物です！

環境こだわり農産物とは？

次の3つを守って作られた農産物を滋賀県が  
認証したものです

- 農薬や化学肥料の使用量を通常の半以下に減らして栽培する
- 琵琶湖や周辺の環境にやさしい技術で栽培する
- いつ、どんな農薬や化学肥料を使用したか記録する



さらに、『魚のゆりかご水田米』の栽培のため  
次のようなことにも取り組んでいます

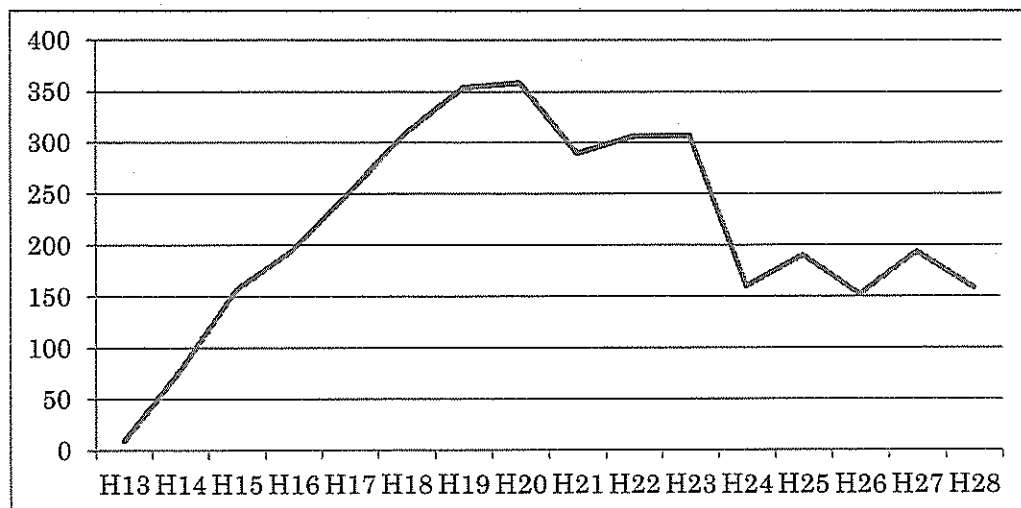
- 除草剤を使用する場合は、魚に影響のないものに限定する
- 田んぼで、魚の赤ちゃんが成育しているか確認する
- 魚の赤ちゃんが琵琶湖へかえりやすいよう工夫する



野菜等園芸作物の取組拡大について (6/26 滋賀県園芸農産振興協議会資料)

1. 取組状況

(1) 環境こだわり農産物(野菜)の栽培面積の推移 (ha)



(2) 主な品目別環境こだわり作付面積(ha)および割合(平成27年度)

	こだわり面積 (A)	県内作付面積 (B)	作付率 (A/B)	過去の 最大作付率
ブロッコリー	17.4	60.1	29%	58%
こまつな	17.0	80.2	21%	48%
大かぶ	11.4	112.0	10%	60%
にんじん	9.7	24.1	40%	54%
ほうれんそう	8.0	64.0	13%	62%
しゅんぎく	6.8	17.7	38%	93%
キャベツ	5.2	231.2	2%	14%
みずな	4.5	98.1	5%	26%
かぼちゃ	4.2	36.0	12%	41%
きゅうり	3.5	31.6	11%	23%
ミニトマト	3.4	6.7	51%	61%
だいこん	2.8	62.0	5%	68%
すいか	2.2	21.7	10%	23%
チンゲンサイ	2.2	10.1	22%	157%
たまねぎ	2.0	49.0	4%	19%
レタス	2.0	6.2	32%	85%
ねぎ	1.8	67.8	3%	9%
はくさい	1.7	79.1	2%	17%

## 2. 課題

### ① 流通・販売

流通や販売関係者からは、高品質・安定供給が強く求められている。また、店頭では、ロットごとにシールの有無等バラツキが出るのと取扱や消費者への説明が負担となり敬遠されるほか、店頭のスタッフの制度理解が十分に浸透していない。

### ② 収益性

気象や作型によっては、抵抗性病害虫の発生等により、従来と同じ栽培体系では生産性を維持することが困難な品目もある他、有利販売が困難な現状下では、認証シールの表示等に必要なコスト分だけ農業者所得の圧迫につながる。

### ③ 消費者ニーズ

消費者の安全・安心な農作物に対するニーズはあるものの、「環境こだわり農産物」が価格的に有利販売できる状況では無い。

### ④ 有機栽培

有機栽培野菜は需要に供給が追いついておらず、価格にもよるが高齢者や若い子育て世代を中心に需要がある。

### ⑤ 認証事務

認証手続きについて、記録や事務手続きが煩雑なため、特に少量多品目の場合、栽培責任者・確認責任者の負担が大きくなる。

## 3. 推進方向（たたき台）

### （1）基本的な考え方

- 野菜等園芸作物については、重点品目を定め、市場や量販店への出荷を促進し、直売所等に向けては少量多品目生産を推進する。（「滋賀県環境こだわり農業推進基本計画」抜粋）
- 生産組織、農業者団体、県が連携し、重点品目の「環境こだわり」農産物比率を高めるとともに、全県で一体的な PR を行い、消費者理解を促し、「優位」販売につなげられるようなモデル的な品目育成を進める。（滋賀県園芸農産振興協議会）

## (2) 推進方策のたたき台

### ① 重点品目を選定し取組を推進

- ロットを確保するため、過去に一定の取組面積があり（作りやすく）、現時点でも取組が一定継続し（ロットが確保しやすく）、県内作付け面積が上位（目につきやすい）の品目の中から、重点品目を選定し、各生産部会を対象に「環境こだわり栽培」への取組を推進する。
- 生産部会等が取り組む試作や包装・シールの変更に必要なイニシャルコストの負担軽減を図るため、経費の一部を支援する。  
「環境こだわり農産物生産・流通促進事業」
- 「環境こだわり農産物」の店頭PR用資料の作成や販売員等の研修を行い、消費者とのコミュニケーションを深め有利販売を目指す。

対象品目（例）	推進に向けた対応等
ミズナ、コマツナ、ホウレンソウ、トマト、キャベツ、ブロッコリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例えば「みずかがみ」のようにパッケージ全体で訴求できる共通デザイン・キャッチを検討する。</li> <li>・生産組織が新たに包装の版を作製する際の費用の補助。</li> <li>・店頭販売用の広告（ポップ等）を作成する際の費用の補助や統一ポップ作成。</li> <li>・小分け表示申請等の手続きの簡素化。</li> <li>・環境直接支払交付金の活用。</li> </ul>

### ② 有機農産物等の検討

「有機農産物」については、比較的取り組みやすい品目・作型を選定し、試作や市場調査を進めるとともに、新たな認証・表示方法（農薬・化学肥料不使用）の創設を検討する。

対象品目（例）	推進に向けた対応等
有機栽培：ジャガイモ、ニンジン、サツマイモ、レタス、タマネギ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農薬不使用栽培が可能な品目の中から、通常栽培と比較し2～3割高までの範囲で出荷可能な品目を選定し、生協等とタイアップし生産。</li> <li>・試作や包装の版を作製する費用の補助。</li> </ul>

### ③ 認証事務の見直し

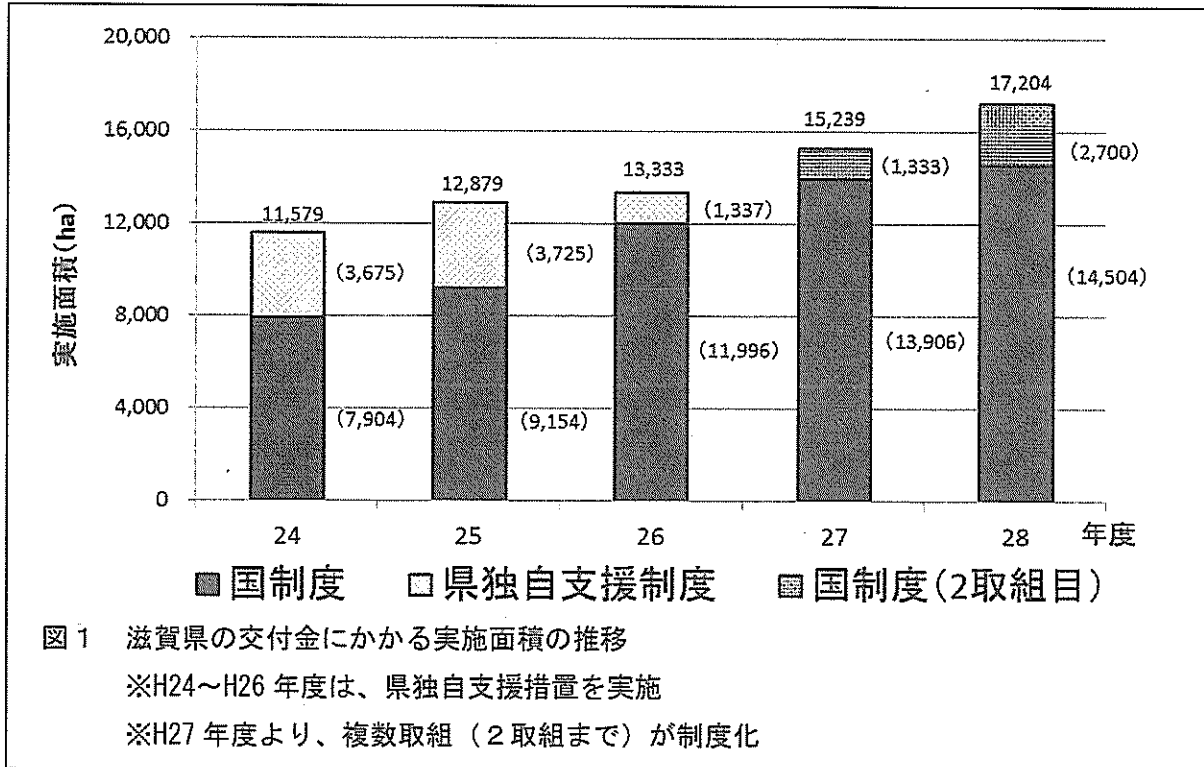
認証手続きの一部見直しを検討し、栽培責任者・確認責任者の事務負担軽減を図る。



## 環境保全型農業直接支払交付金の実施状況

### 1. 実施面積の推移

滋賀県での本交付金の実施面積は年々増加しており、平成 28 年度では複数取組の効果もあり、約 17,204ha となった。



### 【参考】

本交付金の全国での実施面積は平成 28 年度で 84,556ha で、そのうち滋賀県は約2割を占めている。

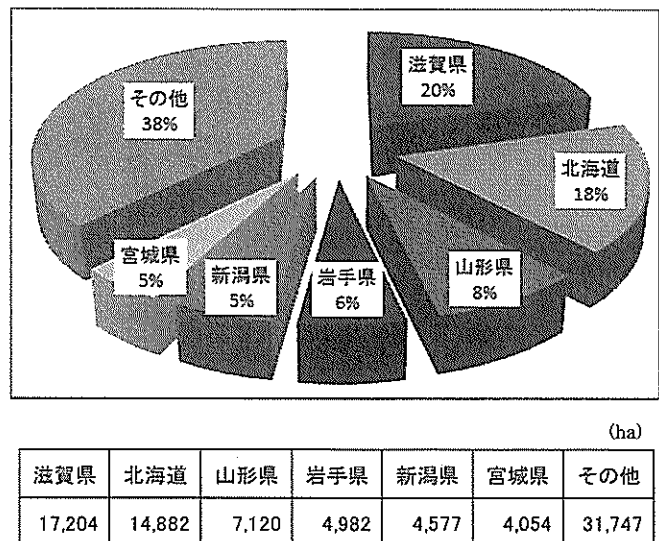
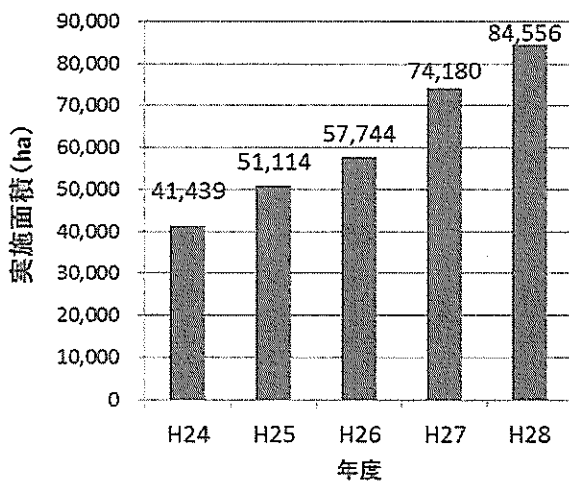


図2 全国の実施面積の推移

図3 実施面積の割合(H28)

## 2. 支援対象取組別の面積

取組面積のうち、⑧「IPM の実践、畦畔の人手除草および長期中干し」、⑩「緩効性肥料の利用および長期中干し」および⑭「水田雑草管理」で約8割を占めている。

滋賀県は地域特認取組が9割を占めており、全国と比較しても高い割合となっている。

表 滋賀県の支援対象取組別の実施面積(H28)

単位:a

		環境保全効果	第1取組	第2取組	計	
全国共通	①	カバークロープ	温	49,814	9,222	59,036
	⑤	有機農業(下記以外)	温・生	28,808	1,756	30,564
		有機農業(雑穀等)	温・生	20,661	1,610	22,271
	⑥	堆肥の投入	温	51,107	6,461	57,568
地域特認取組	②	リビングマルチ	温	8,390	20	8,410
	③	草生栽培	温	22	0	22
	④	冬期湛水	生	9,388	6,214	15,602
	⑦	炭の投入	温	35,590	6,787	42,377
	⑧	IPM+畦畔人手除草+長期中干し	温・生	548,614	64,021	612,635
	⑨	魚種等保全水田	生	202	4,463	4,665
	⑩	バンカープランツ	生	17	0	17
	⑪	緩効性肥料+長期中干し	温	567,781	18,341	586,122
	⑫	緩効性肥料+省耕起(大豆)	温	28,948	0	28,948
		緩効性肥料+省耕起(露地野菜)	温	104	3	107
	⑬	水田ピオトープ	生	1,919	9,250	11,169
	⑭	水田雑草管理	生	17,990	135,213	153,203
	⑮	IPM(大豆・露地野菜)	生	74,839	6,279	81,118
		IPM(施設野菜・果樹・茶)	生	2,493	336	2,829
⑯	在来草種の草生	生	3,775	0	3,775	
⑰	緩効性肥料+深耕(茶)	温	0	0	0	
計				1,450,462	269,976	1,720,438

※環境保全効果は、温:温暖化防止、生:生物多様性保全への効果を示す

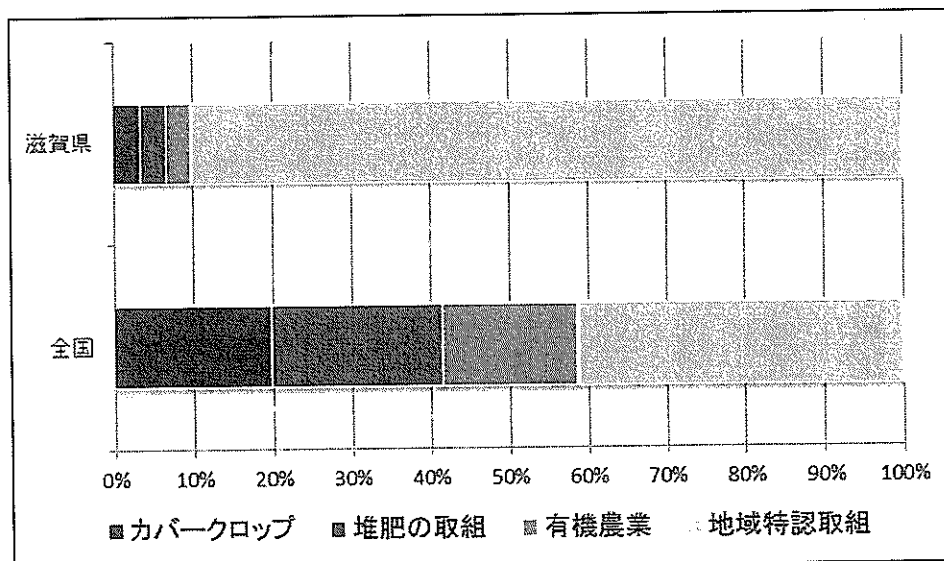


図4 全国と滋賀県の支援対象取組面積の割合(H28)

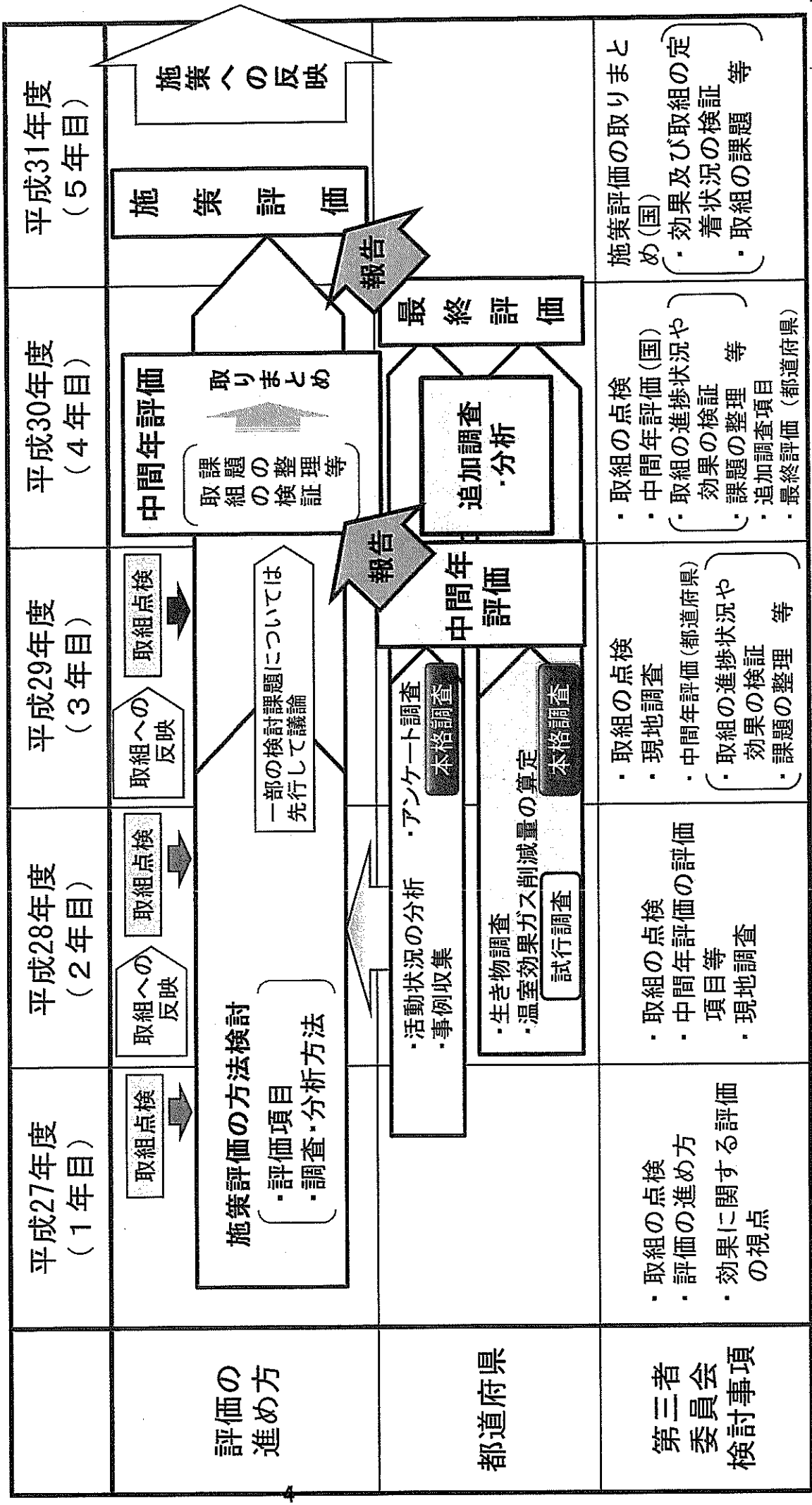


# 環境保全型農業直接支払制度に関する

## 中間年評価について

# 1. 今後のスケジュール(1)

- 環境保全型農業直接支払交付金の交付が計画的かつ効果的に実施されるよう、取組状況の点検や制度の効果等の検証を行い、施策に反映。
- 都道府県の第三者委員会による中間年評価は3年目（平成29年度）に実施し、その結果を踏まえて国の第三者委員会で中間年評価を実施。



## 2. 今後のスケジュール(2)

	平成28年度		平成29年度							平成30年度						
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
国	☆ 第6回 第三者委員会 (3/23)		☆ 本格調査に関する 都道府県担当者 向け説明会 (茨城県つくば市)		☆ 第三者委員会		☆ 第三者委員会 (現地調査)	調査の 結果の 集計			中間年評価骨子 とりまとめ		中間年評価骨子 (第三者委員会)			中間年評価 (第三者委員会)
都道府県		本格調査依頼 (4/28)		中間年評価の 報告様式			調査結果報告 (9/29)	全国集計結果の フィードバック (10月末まで)		都道府県 中間年評価案の報告 (12月末まで)		都道府県 中間年評価の報告 (2月中旬まで)		都道府県 中間年評価 (第三者委員会)		
市町村																
農業者の 組織する 団体等																

### 3. 調査方法の概要

○ 中間年評価にあたっては、評価の視点を踏まえて、必要なデータや情報を収集・分析する。具体的には、実績報告書等の既存データを活用するほか、地球温暖化防止や生物多様性保全の効果測定等を実施（都道府県段階での第三者委員会の評価結果をもとに国段階での評価を実施）。

#### 平成29年度に実施する本格調査の内容

##### (1) 地球温暖化防止効果

【見える化サイトを用いた調査】

- ・ 『土壌のCO<sub>2</sub>吸収「見える化」サイト』（以下「見える化サイト」という。）を活用できる取組については、「見える化サイト」による調査を実施

【見える化サイトによらない調査】

- ・ 「見える化サイト」が活用できない取組については、取組ごとに専門家の意見を踏まえ、既存の研究データを活用した調査方法により実施

##### (2) 生物多様性保全効果

【マニユアルを用いた調査】

- ・ 「農業に有用な生物多様性の指標生物調査・評価マニユアル」（以下「マニユアル」という。）を活用できる取組については、「マニユアル」による調査を実施

【マニユアルによらない調査】

- ・ 「マニユアル」が活用できない取組については、取組ごとに専門家の意見を踏まえて「マニユアル」以外の調査方法により実施

##### (3) アンケート調査

【交付金の取組状況に関すること】

- ・ 地域の自然環境に関する課題、推進体制
- ・ 交付金に取り組んだ目的と交付金の用途、その効果
- ・ 平成31年度に向けた取組別の拡大意向、進捗状況

【環境保全効果の発揮に関すること】

- ・ 地球温暖化防止を目的とした取組の拡大意向、進捗状況、課題
- ・ 生物多様性保全を目的とした取組の拡大意向、進捗状況、課題

【環境保全型農業の普及に関すること】

- ・ 特別栽培農産物、有機JAS等の普及・拡大の効果

【農業の持続的な発展に関すること】

- ・ 持続的に耕作可能な農地の維持及び安定的な経営状況の確保の現状等
- ・ 新規就農者や慣行農業からの転換者の参入・定着状況、課題

【地域への波及・活性化に関すること】

- ・ 消費者等との交流会の開催状況、課題
- ・ 農産物の有利販売の状況、課題
- ・ 地域資源の保全・活用状況、課題

# 4. 都道府県中間年評価の報告項目

## <基本構成>

### 第1章 交付状況の点検

これまでの環境直接支払の実施状況(実施市町村数、実施件数、実施面積等の項目)の推移を整理  
・各項目について点検  
→実施面積は順調に伸びているか  
→特に多い取組はどんなもので、その要因は何か 等

### 第2章 環境保全効果等の評価

- 1 地球温暖化防止効果
- 1-2 生物多様性保全効果
- 1-3 その他の環境保全効果
- 4 環境保全効果以外の効果

・本格調査の実施結果等を基に、各取組の環境保全効果を評価  
※その他の環境保全効果は、該当するものがある場合のみ

### 第3章 地域特認取組の自己点検

・県で対象となっている地域特認取組について、樹かり増し経費を整理するとともに、取組実績や調査による環境保全効果等を踏まえて自己点検

### 第4章 取組に関する課題や今後の取組方向等

- 1 課題と今後の取組方向
- 2 実施していない地域特認取組について

・これまでの整理を踏まえ、環境直接支払の取組についてより広く推進し、より効果の高い取組とするためにはどのような課題があるか、今後はどのようにしていくか  
・国に申請して認められたものの、実施していない取組の必要性を整理

### 参考編

- 1 環境保全型農業直接支払交付金に関する独自要件
- 2 環境保全型農業を推進するための県独自の支援事業
- 3 県第三者機関について

・環境直接支払に関する独自要件やその効果を整理  
・環境保全型農業の推進に関する都道府県単独事業やその効果を整理  
・県の第三者委員会の構成やこれまでの開催概要を整理

※赤枠内は、都道府県の主な作業内容

(参考)

- 国及び都道府県は環境保全型農業直接支払交付金実施要綱に基づき、(ア)当該交付金の交付状況の点検、(イ)事業効果の評価などを協力して行うことを目的として、有識者による第三者委員会を設置。
- 国の第三者委員会は、都道府県の第三者委員会の評価結果を踏まえて、中間年評価を行い施策に反映。

実施要綱

- 第5 実施体制
  - 1 国は(略)交付金の交付状況の点検及び効果の評価を行う中立的な第三者機関を設置する。
  - 2 都道府県は(略)交付金の交付状況の点検及び効果の評価を行う中立的な第三者機関を設置する。

実施要領

第1 環境保全型農業直接支払交付金  
15 第三者機関

要綱第5の1及び2の中立的な第三者機関の構成員は、環境保全型農業について高い学識経験を有する者その他環境の保全に関して知識や経験を有する者、公益を代表する者等から選ぶものとする。ただし、交付金の執行に当たって利害関係を有する者を選ぶことはできないこととする。なお、既存の審議会、協議会等を活用する場合であっても、交付金に係る利害関係者を除くものとする。

実施体制

国(第三者委員会)

全国の交付金の取組状況の点検

- ・ 取組面積、取組件数 等

効果の評価

- ・ 環境保全型農業の普及状況
  - ・ 地球温暖化防止や生物多様性保全等の効果
  - ・ 農業の持続的な発展の効果
  - ・ 地域への波及・活性化の効果
- ※ 各都道府県の評価や現地調査を踏まえ効果を評価 等

報告

都道府県(第三者委員会)

交付金の取組状況の点検

- ・ 取組面積、取組件数 等

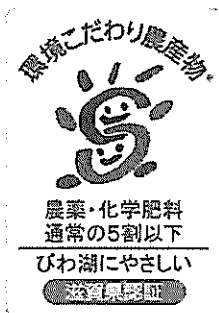
農業者の組織する団体等の取組の評価(実施状況)

- ・ 環境保全型農業の普及状況
  - ・ 地球温暖化防止や生物多様性保全等の効果
  - ・ 農業の持続的な発展の効果
  - ・ 地域への波及・活性化の効果
- ※ アンケート調査等を実施し把握 等

(任意)各都道府県独自の調査・評価

各都道府県は、上記項目のほか、独自に調査、評価を実施

平成 29 年 7 月



## 「日本一の環境こだわり農業」発信事業について

滋賀県農政水産部食のブランド推進課

### □事業の目的

環境保全型農業直接支払の取組が全国の 20% を占め 5 年連続日本一となるなど、滋賀県の「環境こだわり農業」は全国に誇れる取組であること、生産者が琵琶湖の環境保全のために努力していることを、「おいしさ」とともに全国に発信し、環境こだわり農産物のブランド力向上・消費拡大につなげることを目的とします。

### 1. 「日本一の環境こだわり農業」発信業務委託

#### ◆事業の概要

「日本一の環境こだわり農業」の取組や生産者の琵琶湖に対する思い、生産の苦勞などの「物語」を取材のうえ、写真や文章でつづった A5 サイズ 32 ページの冊子に、附録として環境こだわり農産物の「商品」をつけた「ブック型」の新たな PR 資材を作成します。

また、冊子とは別に、環境こだわり米等の購入者にお届けできる、タブロイドサイズで 8 ページ程度の冊子のダイジェスト版を広報誌として作成します。

ここ滋賀をはじめとした首都圏地域や、京阪神地域の環境こだわり米の消費者に対して、本事業で作成する新たな PR 資材や広報誌を活用します。

### 2. 「日本一！環境こだわり米」キャンペーン業務委託

#### ◆事業の概要

本県の「環境こだわり農業」が全国に誇れる取組であること、生産者が琵琶湖のために努力していることを、京阪神地域を中心に東海・関東圏も含めた消費者の皆さまに知っていただくとともに、滋賀県の「環境こだわり農産物」の理解浸透を図り、特に「環境こだわり米」の利用を促進することを目的に、環境こだわり米商品の米袋にシールを貼付する懸賞付キャンペーンを実施します。

キャンペーン期間：平成 29 年 9 月 1 日(金) ～ 12 月 31 日(日)

※応募締切 平成 30 年 1 月 31 日(水) 消印有効

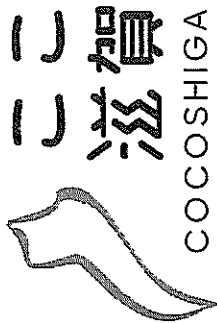
シール印刷枚数：322,700 枚(予定)

協力卸売事業者：11 事業者

H29

キャンペーンシール

HOME NEWS ABOUT MAP DOWNLOAD CONTACT



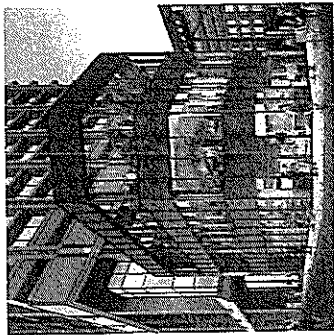
### 東京日本橋に2017年10月29日オープン！

#### NEWS ニュース

- 2017.7.10 7月10日より、企画展第2次エントリリーを開始いたしました。  
応募資料やエントリリー可能日については「ダウンロード」からご確認ください。NEW
- 2017.6.17 企画展第2次エントリリー 7/10～8/4
- 2017.6.16 取扱商品が最終め切り・企画展第1次エントリリー締め切り

「全国・世界から選ばれる滋賀」へ

“東京で滋賀の魅力を体感できる場所”



滋賀の魅力を実際に見て、触れて、覚えることができる体験型の発信を行うとともに、滋賀への感銘の復讐を狙う拠点を展開しています

#### 営業時間

- 1階  
7月～9月: 10:00～20:00  
日本橋店: 10:00～21:00
- 2階  
30日～31日: 11:00～14:00 / 18:00～21:00
- 屋上  
7月～9月: 10:00～21:00

所在地  
103-0027 東京都中央区日本橋二丁目7-1 東京日本橋タワー

アクセス  
知念ビル・日本橋駅 徒歩10分  
丸の内線 日本橋駅 徒歩10分

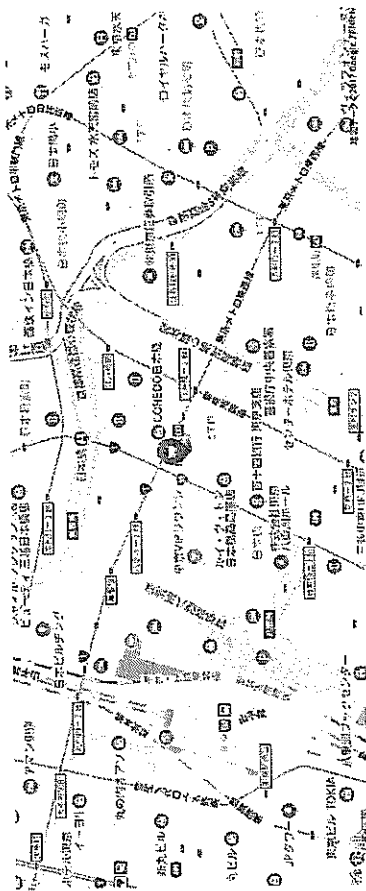


1F  
滋賀県産の食品・工芸品等の販売、来店  
バー、ライブアクトコナー、展示場等

2F  
近江中七郎館をテーマにした雑貨の取扱を中心  
バー、ライブアクトコナー、展示場等

屋上  
テラス席、季節にあわせたイベント等

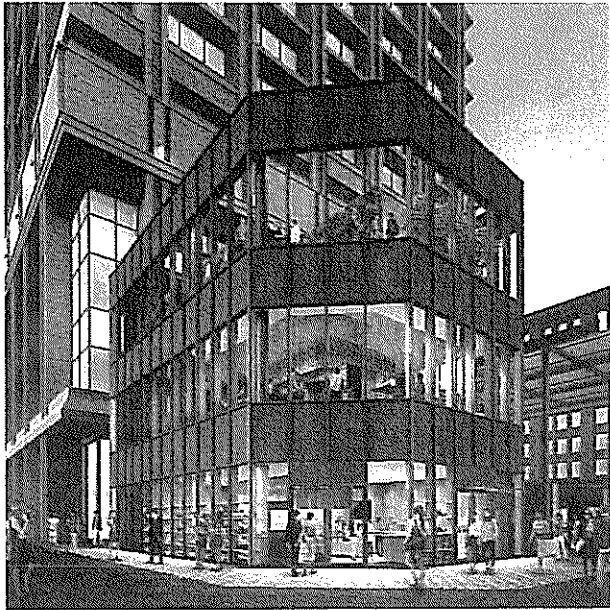
#### MAP マップ



103-0027 東京都中央区日本橋二丁目7-1 東京日本橋タワー

DOWNLOAD  
ダウンロード

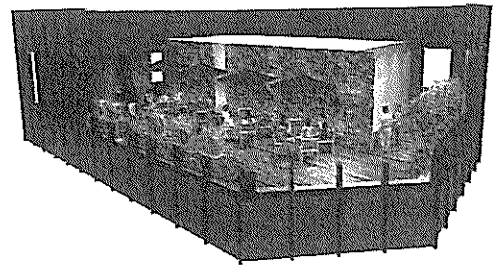
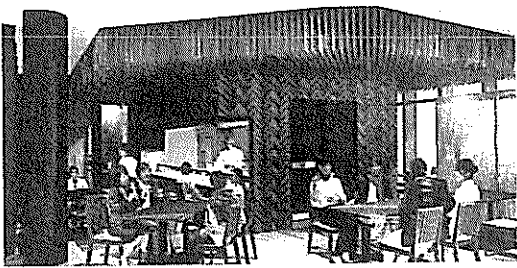




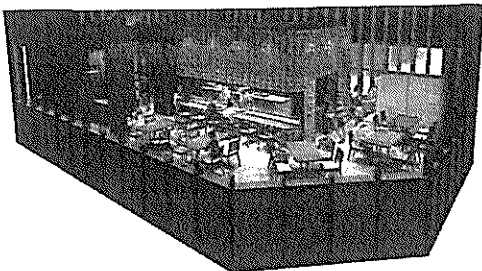
交差点から



1階部分



屋上部分



2階部分

## 農産物に関するアンケート 調査票

※数字に○をつけるか、もしくはその他を選ばれたときは（ ）に具体的な内容を記入してお答えください。

<あなたご自身について>

問1. あなたの性別 (1つだけ選択)

- 1 男性                      2 女性

問2. あなたの年齢 (1つだけ選択)

- 1 20歳未満  
2 20歳代  
3 30歳代  
4 40歳代  
5 50歳代  
6 60歳代  
7 70歳以上

問3. 世帯員数 (あなた自身を含めて) (1つだけ選択)

- 1 1人  
2 2人  
3 3人  
4 4人  
5 5人  
6 6人以上

問4. あなたのお住まいの地域 (1つだけ選択)

- |         |        |        |
|---------|--------|--------|
| 1 大津市   | 3 守山市  | 5 野洲市  |
| 2 草津市   | 4 栗東市  |        |
| 6 甲賀市   | 7 湖南市  | 11 菟王町 |
| 8 近江八幡市 | 9 東近江市 | 10 日野町 |
| 12 彦根市  | 13 愛荘町 | 14 豊郷町 |
| 17 長浜市  | 18 米原市 | 15 甲良町 |
| 19 高島市  |        | 16 多賀町 |

問5. 滋賀県内での居住年数 (1つだけ選択)

- 1 1年未満  
2 1年～5年未満  
3 5年～10年未満  
4 10年～20年未満  
5 20年～30年未満  
6 30年以上

<農産物の購入について>

問6. あなたがふだん、野菜や果物を購入する場所はどこですか? (1つだけ選択)

- 1 量販店 (スーパー、コンビニなど)  
2 小売店 (八百屋など)  
3 宅配 (生協など)  
4 農産物直売所、道の駅  
5 その他 ( )

問7. あなたが野菜や果物を購入するにあたって、重視することは次のうちどれですか? (2つまで選択可)

- 1 値段の安さ  
2 新鮮さ  
3 人体への安全性  
4 環境に配慮した生産方法  
5 おいしさ  
6 産地  
7 その他 ( )

問8. 農産物の安全性について、どのように感じていますか? (1つだけ選択)

- 1 不安を感じていない  
2 どちらかといえば不安を感じていない  
3 どちらかといえば不安を感じている → 次の問9にお答えください。  
4 不安を感じている → 次の問9にお答えください。  
5 わからない

問9. 上記の問8で3または4と回答された方におたずねします。特に不安を感じていることはどれですか? (2つまで選択可)

- 1 食中毒をおこす病原菌による汚染  
2 農薬の残留  
3 遺伝子組み換え作物  
4 放射性物質による汚染  
5 何となく  
6 その他 ( )

問10. あなたが農産物を購入するとき、以下の表示のうちどれをよく見えていますか? (いくつでも選択可)

- 1 賞味期限表示  
2 産地表示  
3 特別栽培農産物表示  
4 環境こだわり農産物認証マーク  
5 有機JASマーク  
6 その他 ( )



問11. あなたは、農薬や化学肥料をできるだけ使わないで作った農産物をよく買いますか？ (1つだけ選択)

1 よく買う
2 たまに買う
3 買わない

問12. あなたは自宅で食べるお米をどのように入手していますか？ (1つだけ選択)

1 スーパーで購入している	次の問13, 14に お答えください。
2 米屋で購入している	
3 生協の宅配やネット通販で購入している	
4 農産物産売所で購入あるいは農家から直接購入している	
5 知り合いや親戚などから購入して (またはもらって) いる	
6 お米は自給している	

問13. 上記の間12で1, 2, 3, 4のいずれかに回答された方におたずねします。ふだん、どの産地の、どんな品種のお米を、何kg何円くらいで購入されていますか？

〈産地〉 (1つだけ選択)

1 滋賀県産
2 滋賀県以外の都道府県産
3 特に決まっていない

〈品種〉 (1つだけ選択)

1 コシヒカリ	( )
2 キヌヒカリ	
3 日本晴	
4 みずかがみ	
5 秋の精	
6 その他 ( )	
7 特に決まっていない	

〈価格〉

( ) kg ( ) 円
--------------

問14. 上記の間12で1, 2, 3, 4のいずれかに回答された方におたずねします。あなたがお米を購入するにあたって、重視することは次のうちどれですか？ (2つまで選択可)

1 値段の安さ	( )
2 新米さ (精米した日付)	
3 人体への安全性	
4 環境に配慮した生産方法	
5 おいしさ	
6 産地	
7 その他 ( )	

〈琵琶湖の環境保全への関心について〉

問15. あなたは、現在の琵琶湖の水質についてどのようなお考えですか？ (1つだけ選択)

1 大幅に改善してほしい
2 少しは改善してほしい
3 現状のままでよい
4 現状より悪化しても仕方ない
5 わからない

問16. 琵琶湖にはニゴロブナ、ホンモロコシなど琵琶湖にしか存在しない魚が十数種いますが、その数は減少しています。あなたは、こうした魚の数についてどのようにお考えですか？ (1つだけ選択)

1 大幅に回復してほしい	( )
2 少しは回復してほしい	
3 現状のままでよい	
4 現状より悪化しても仕方ない	
5 わからない ( )	

問17. あなたは、農薬や肥料などが川や琵琶湖を汚染したり、魚のすみかを悪化させたりすると思いますか？ (1つだけ選択)

1 非常にそう思う
2 ややそう思う
3 あまり思わない
4 全く思わない
5 わからない

問 1.8. あなたは、水田から流出する死水（濁水）が川や琵琶湖を汚染したり、魚のすみわ環境を悪化させたりすると思いますか？（1つだけ選択）

1 非常にそう思う
2 ややそう思う
3 あまり思わない
4 全く思わない
5 わからない

問 1.9. あなたは、琵琶湖の環境を守るために以下の行動をすることがありますか？（いくつでも選択可）

1 保全活動への参加
2 生活排水の配慮
3 環境に配慮した商品の購入
4 その他（ ）
5 特になし

<環境こだわり農産物について>

問 2.0. 滋賀県では、農薬と化学肥料の使用量を通常の5割以下に削減し、かつ水田からの濁水をできるだけ琵琶湖に流さないよう配慮した農産物を、『環境こだわり農産物』として果が認証し、以下に示したような認証マークをつけて販売されていることをご存知ですか？（1つだけ選択）

1 よく知っている	→ 次の問 2.1にお答えください。
2 少し知っている	→ 次の問 2.1にお答えください。
3 知らない	



問 2.1. 上記の問 2.0 で 1 または 2 と回答された方におたずねします。あなたは『環境こだわり農産物』を買ったことがありますか？（1つだけ選択）

1 よく買う
2 たまに買う
3 買ったことはないが、買ったことはある
4 見たことはないが、名前だけは知っている

次からの質問にお答えになる前に、以下の説明をよくお読みください。

次のページから、お米に関する8問の3択問題が始まります。選択肢に提示されているのはすべて滋賀県産の3シシカワで、それぞれの選択肢に以下の価格とお米の生産方法の2つの情報が提供されています。

●価格：5kg あたりの価格		●お米の生産方法：以下の5つのお米の生産方法があります。	
生産方法	内容	生産方法	内容
①慣行栽培	農薬や化学肥料の使用に特別な配慮はしていないもの	①慣行栽培	農薬と化学肥料を通常の5割以下にした上で、濁水対策も実施しているもの
②濁水対策のみ実施	水田からの濁水が琵琶湖に流れ込まないような対策は実施しているが、農薬と化学肥料については慣行栽培と同様	②濁水対策のみ実施	農薬と化学肥料を過去3年以上使用せず、圃の規格を認証基準を満たし、さらに濁水対策も実施しているもの
③環境こだわり	農薬と化学肥料を慣行栽培の5割以下にした上で、濁水対策も実施しているもの	③環境こだわり	農薬と化学肥料を過去3年以上使用せず、圃の規格を認証基準を満たし、さらに濁水対策も実施しているもの
④農薬・化学肥料不使用	農薬と化学肥料を使用せず、さらに濁水対策も実施しているもの	④農薬・化学肥料不使用	農薬と化学肥料を過去3年以上使用せず、圃の規格を認証基準を満たし、さらに濁水対策も実施しているもの
⑤有機JAS	農薬と化学肥料を過去3年以上使用せず、圃の規格を認証基準を満たし、さらに濁水対策も実施しているもの	⑤有機JAS	農薬と化学肥料を過去3年以上使用せず、圃の規格を認証基準を満たし、さらに濁水対策も実施しているもの

質問ごとに、購入したいと思う選択肢（1つだけ）に○をつけてください。前後の質問とは関係なく、1問ごとにその質問で提示された選択肢の中から最も適切と考えられる選択肢をお選びください（一見似ている質問もありますが、選択肢は必ず異なります）。

これまでの研究から、今回のような質問にご回答いただく場合、ふだんよりも高価な商品を選ぶ傾向があることが知られています。こうした傾向に留意して、ふだんの買い物と同じ感覚でそれぞれの質問にご回答ください。

【記入例】

1 お米 (A)	2 お米 (B)	3 買わない
2,300円	1,900円	
①慣行栽培	⑤有機JAS	

価格 (5kg) → (B) の価格欄に記入  
生産方法 → (A) の生産方法欄に記入

問22. 以下のお米の中で、あなたが最も買いたいと思うものはどれですか？

1 お米 (A) 2,700円 ①慣行栽培	2 お米 (B) 2,300円 ⑤有機JAS	3 買わない
-----------------------------	------------------------------	--------

問23. 以下のお米の中で、あなたが最も買いたいと思うものはどれですか？

1 お米 (A) 1,500円 ④農薬・化学肥料不使用	2 お米 (B) 2,700円 ⑤有機JAS	3 買わない
-----------------------------------	------------------------------	--------

問24. 以下のお米の中で、あなたが最も買いたいと思うものはどれですか？

1 お米 (A) 2,700円 ②灌水対策のみ実施	2 お米 (B) 1,500円 ①慣行栽培	3 買わない
---------------------------------	-----------------------------	--------

問25. 以下のお米の中で、あなたが最も買いたいと思うものはどれですか？

1 お米 (A) 1,500円 ②灌水対策のみ実施	2 お米 (B) 1,900円 ④農薬・化学肥料不使用	3 買わない
---------------------------------	-----------------------------------	--------

問26. 以下のお米の中で、あなたが最も買いたいと思うものはどれですか？

1 お米 (A) 1,900円 ②灌水対策のみ実施	2 お米 (B) 3,100円 ③環境こだわり	3 買わない
---------------------------------	-------------------------------	--------

問27. 以下のお米の中で、あなたが最も買いたいと思うものはどれですか？

1 お米 (A) 3,100円 ⑤有機JAS	2 お米 (B) 2,300円 ③環境こだわり	3 買わない
------------------------------	-------------------------------	--------

問28. 以下のお米の中で、あなたが最も買いたいと思うものはどれですか？

1 お米 (A) 3,100円 ④農薬・化学肥料不使用	2 お米 (B) 1,900円 ①慣行栽培	3 買わない
-----------------------------------	-----------------------------	--------

問29. 以下のお米の中で、あなたが最も買いたいと思うものはどれですか？

1 お米 (A) 1,500円 ③環境こだわり	2 お米 (B) 3,100円 ①慣行栽培	3 買わない
-------------------------------	-----------------------------	--------

問30. あなたの世帯全体の年収は、税込みでおよそおいくらですか？ (年金含む)

※調査結果の分析に必要な質問項目です。何卒ご了承ください。

1 200万円未満
2 200~400万円未満
3 400~600万円未満
4 600~800万円未満
5 800~1,000万円未満
6 1,000~1,500万円未満
7 1,500万円以上

その他、農産物に関するご意見があれば、ご自由にご記入ください。


質問は以上です。アンケートへのご協力、誠にありがとうございました。

